

# Carbon Frontier Magazine

カーボンフロンティアマガジン

第 18 号(2024 年 10 月号)

## 目次

### カーボンフロンティア機構からのお知らせ

- JCOAL's Statement 発信
- プレスリリース①: 米国ワイオミング大学および JX 石油開発株式会社との CO<sub>2</sub> 鉱物化に関する覚書の締結について
- プレスリリース②: 令和 6 年度「持続可能な航空燃料(SAF)の製造・供給体制構築支援事業」の補助事業者に採択されました。
- 開催案内: (会員用) CCT セミナー2024(第 2 回)
- 開催案内: 「Japan CCS Forum 2024」開催のご案内
- 掲載案内: カーボンプライシング入門 (3)を掲載
- 参加報告: 総合資源エネルギー調査会 第 42 回資源・燃料分科会

### 海外ニュース

- ベトナム: ベトナム石炭公社、今後6年で輸入量大幅拡大を計画
- 中国: クリーンで効率的な石炭利用を推進する政府意見
- グローバル: アングロ、石炭資産買収最終オファーを 11 月中旬に期待
- オーストラリア: 連邦環境大臣が NSW 州3炭鉱の拡張計画を承認
- オーストラリア: リオティント、バイオディーゼルプロジェクトを開始
- 米国、オーストラリア: Thiess 社と Flanders 社、鉱山用トラックの脱炭素化協力
- オーストラリア: メタン排出量、実測値と報告値で乖離大の可能性

### 石炭価格推移

### アンケートへのご協力お願い

### 独り言

## カーボンフロンティア機構からのお知らせ

### ■ JCOAL's Statement 発信

第 33 回クリーン・コール・デー国際会議(2024)の議論を通して、JCOAL's Statement を発信しました。詳細はこちらを参照ください。

<https://www.jcoal.or.jp/news/upload/18d8a2def98b6738a1e55933417ddbc54077082a.pdf>

### ■ プレスリリース①: 米国ワイオミング大学および JX 石油開発株式会社との CO<sub>2</sub> 鉱物化に関する覚書の締結について

プレスリリース詳細はこちらを参照ください。

[https://www.jcoal.or.jp/news/2024/1015\\_02.html](https://www.jcoal.or.jp/news/2024/1015_02.html)

### ■ プレスリリース②: 令和 6 年度「持続可能な航空燃料(SAF)の製造・供給体制構築支援事業」の補助事業者に採択されました。

プレスリリース詳細はこちらを参照ください。

<https://www.jcoal.or.jp/news/2024/1015.html>

### ■ 開催案内: (会員用) CCT セミナー2024(第 2 回)

当機構主催の CCT セミナー2024(第 2 回)を下記のとおり開催致します。

本セミナーでは、前回に引き続きカーボンプライシングを深掘して、GX 推進機構の梶川理事をお招きして GX 推進機構の概要についてご紹介頂きます。併せて、排出権取引についてもご紹介いたします。皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

日 時 : 2024 年 11 月 5 日(火)14:00~16:30

開催方法 : ハイブリッド開催(会場※+オンライン(Zoom))

※会場: AP 虎ノ門(I+J ルーム)(開場 13:20)

東京都港区西新橋 1 丁目 6-15 日本酒造虎ノ門ビル 3F

申込方法等詳細はこちらを参照ください。

<https://www.jcoal.or.jp/member/information/2024/1008.html>

(会員のみアクセス可能)

## ■ 開催案内: 「Japan CCS Forum 2024」開催のご案内

直接空気回収(Direct Air Capture: DAC)や貯留分野での技術進展、また、欧州における CCS 政策、プロジェクト動向などの紹介を行う「Japan CCS Forum 2024」を開催いたします(GCCSI 主催、カーボンフロンティア機構後援)。

会議の詳細、参加登録は下記 URL を参照ください。

・日本語ページ:

[https://jp.globalccsinstitute.com/news-media/events/japan-ccs-forum-2024\\_jp/](https://jp.globalccsinstitute.com/news-media/events/japan-ccs-forum-2024_jp/)

・英語ページ:

<https://jp.globalccsinstitute.com/japan-ccs-forum-2024-en/>

## ■ 掲載案内: カーボンプライシング入門 (3)を掲載

カーボンプライシング入門(3)「排出権(量)取引とは何か？」

連載第三回では、原点に立ち戻り「排出権(量)取引とは何か？」について解説します。なぜ、「カーボンプライシング」ではなく「排出権取引」を最初に説明するの？については追ってお答えします。しばらく辛抱してください。

### 1. 排出権(量)取引の原点

「排出権(量)取引」という言葉があちこちで使われるようになりまして、誰もが対応できるように簡単に分かるようになっているべきです。しかし元来対立する立場を調整するためのものなので、意見の対立はあります。排出権(量)取引が合理的な政策手段だったとしてもそれが万人の腑に落ちるやり方なのか疑問が残るものだからです。

どこかの教科書に書いていないかと思われるでしょうが、正確かつ分かりやすいものはあまりありません。例外的に大学経済学部初年度の学生が学ぶ経済学の教科書の中に比較的わかりやすく説明しているのがマンキュー著の教科書で、「売買可能な汚染許可証」という節の中に、以下の趣旨の記述があります。

(続きは以下を参照。会員のみアクセス可能)

<https://www.jcoal.or.jp/member/country/3.html>

## ■ 参加報告: 総合資源エネルギー調査会 第 42 回資源・燃料分科会

経済産業省は 9 月 24 日、総合資源エネルギー調査会 第 42 回資源・燃料分科会 (分科会長:小堀秀毅 旭化成株式会社 取締役会長)を開催し、当機構から原田副会長代理として橋口専務理事がオブザーバ出席した。本分科会では、議事「資源・燃料政策を巡る状況について」の中で、GX 実現に向けた対応並びにエネルギーの安定供給確保に係る現状と課題が示され、その後の質疑において橋口専務理事よりコメントがあったので、その概要を紹介する。

本分科会で提示された資料詳細は以下を参照願いたい。

[https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shigen\\_nenryo/042.html](https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shigen_nenryo/042.html)

#### <当機構橋口専務理事発言骨子>

資料 3 に関して、「CCUS/カーボンリサイクル」と「石炭の安定供給確保」についてコメントさせて頂く。

##### ➤ 「CCUS」について

- ✓ GX を実現するためのキーテクノロジーとして、需要サイドを含め重要な要素を判りやすく記載頂き感謝。
- ✓ CO<sub>2</sub> は資源でもあり、CO<sub>2</sub> を排出する事業者ではなく、CO<sub>2</sub> を供給する事業者という発想転換が重要で、褐炭等による水素流通、産業間による水素、CO<sub>2</sub> 相互利用等も注目されている課題。
- ✓ CCS 事業法や水素社会推進法の適切な運用、それぞれの地域にあった具体的な事業展開について、引き続きご支援をお願いしたい。

##### ➤ 「石炭の重要性」について

- ✓ 石炭需要の半分は電力用で、半分は、鉄、セメント、化学等の一般産業用で、生活や社会インフラの重要資源でもある。
- ✓ 第四次中東戦争が契機となったオイルショックからちょうど半世紀、石油価格高騰に伴う物価上昇、トイレットペーパーの争奪、石炭が石油代替エネルギーとして注目されたことが思い出される。また、十数年前の東日本大震災でもそうだが、災害や戦争等に直面すると、安価で供給安定性の高い石炭の重要性がクローズアップされる。
- ✓ 最近では、中東地域のみならずウクライナ侵攻の長期化等により、潜在的なエネルギー危機を感じているところであり、エネルギー資源の大半を海外に依存する我が国にとって、改めて、特定のエネルギーに依存するリスクの大きさやエネルギーの安定供給の重要性を認識する次第。
- ✓ P72「石炭の需給の見通しと現状」の中で、石炭需要については、将来的には減少見込みとの予測が示されているものの、安定供給、経済効率性の面で有利で、石炭を含む多様なエネルギー源を持つことは、エネルギー安全保障の強化に資すると認識。例えば、イスラエルでさえ、発電量の約 2 割は石炭に依存している。
- ✓ 竹内委員からもサプライチェーン全体を視野に入れた石炭安定供給性に関するコメントがあったが、石炭について、第 7 次エネルギー基本計画の中で明確に位置付けて頂きたい。
- ✓ また、P73「石炭の自主開発比率」の中に示されているが、石炭調達の安定性をモニタリングする指標として、複数年のターム契約による引取量も考慮することについては異論ないので引き続き検討頂きたい。

## 海外ニュース

### ■ ベトナム：ベトナム石炭公社、今後6年で輸入量大幅拡大を計画

ベトナム石炭公社(Vietnam National Coal and Mineral Industries - 通称「ビナコミン」)は一般炭輸入量を 2030 年には 2,200 万トンに増やす事を目標としている。

ベトナムは 2024 年1-8月で 4,586 万トンの石炭を輸入しており前年比33%増となっている。今年の石炭輸入量は最終的に 6,900 万トン近くになると見込まれ、これは 2020 年の 5,500 万トンの石炭輸入以来の過去最高となる見込みである。

昨年発表された国家エネルギーマスタープランによると、国内石炭生産が横ばいと的前提で輸入量は 2030 年までに約 7,300 万トンに達し、2035 年には約 8,500 万トンに達すると予想されている。

国内生産量は今年、昨年の 3,680 万トンから 3,740 万トンに微増する目標を掲げているが、ベトナムの石炭埋蔵の多くを占める紅河デルタ地帯の探査計画はなく、国内の石炭生産拡大は頭打ちとなっている。

発電所での混炭のため輸入一般炭には低揮発分および中揮発分で、発熱量が NAR 4,800~5800 kcal/kg、硫黄含有量 0.6%が求められている。

(出典:Argus Media )

### ■ 中国：クリーンで効率的な石炭利用を推進する政府意見

国家発展委員会を含む中央政府機関 6 省庁は、9月29日、双炭目標(\*)に向けた手段としてクリーンかつ効率的な石炭利用を強化するためのガイドラインを発表した。

ガイドラインは(1)グリーン開発 (2)安全、環境配慮型生産 (3)クリーン在庫及び輸送 (4)石炭消費効率化の 4 分野にまたがっており、各分野での施策導入を促進する各種支援策にも言及している。

ガイドラインの概略は以下の通り。

(続きは以下を参照。会員のみアクセス可能)

[https://www.jcoal.or.jp/member/news/CN/20241016\\_02.html](https://www.jcoal.or.jp/member/news/CN/20241016_02.html)

### ■ グローバル：アングロ、石炭資産買取最終オファーを 11 月中旬に期待

アングロ首脳は、原料炭資産に対する拘束力のある買取オファー提示を 11 月中旬に期待しており、その後売買取約の詳細交渉を経て、年内には売却が完了できる可能性を示唆している。原料炭資産買収には 5~7社が参加するとみられており、市場関係者は当該バリューを約 45 億米ドルと評価している。

(続きは以下を参照。会員のみアクセス可能)

[https://www.jcoal.or.jp/member/news/AUS/20241003\\_03.html](https://www.jcoal.or.jp/member/news/AUS/20241003_03.html)

## ■ オーストラリア：連邦環境大臣が NSW 州 3 炭鉱の拡張計画を承認

連邦政府は、NSW 州ハンター・バレーにある Whitehaven Coal 社の Narrabri 炭鉱、Mach Energy 社の Mount Pleasant 炭鉱、Yancoal 社の Ravensworth 炭鉱の拡張計画を承認した。

これにより地元の雇用と経済の安定が保たれると鉱業界は歓迎しているが、環境団体は反発している。

(続きは以下を参照。会員のみアクセス可能)

[https://www.jcoal.or.jp/member/news/AUS/20241003\\_04.html](https://www.jcoal.or.jp/member/news/AUS/20241003_04.html)

## ■ オーストラリア：リオティント、バイオディーゼルプロジェクトを開始

リオティントは、クイーンズランド州北部のタウンズビル近郊で、バイオ燃料のパイロットプロジェクトとしてポンガミア種子農場を開発するため、約 3,000 ヘクタールの土地を購入する最終段階にある。

このプロジェクトは、鉱山で使用するディーゼルの代替となる再生可能ディーゼルの原料としてポンガミア種子油を活用する可能性を探るもの。

(続きは以下を参照。会員のみアクセス可能)

<https://www.jcoal.or.jp/member/news/AUS/20241003.html>

## ■ 米国、オーストラリア：Thiess 社と Flanders 社、鉱山用トラックの脱炭素化協力

オーストラリアで鉱山操業請負業務大手の Thiess 社と米国で電動化技術や産業用機械の制御システムを提供する Flanders 社は、北米の鉱山トラックの脱炭素化のオプションを検討し、オーストラリアやアジアでも同様の取り組みを進める 3 年間の協定を締結した。

(続きは以下を参照。会員のみアクセス可能)

[https://www.jcoal.or.jp/member/news/USA/20241016\\_01.html](https://www.jcoal.or.jp/member/news/USA/20241016_01.html)

## ■ オーストラリア：メタン排出量、実測値と報告値で乖離大の可能性

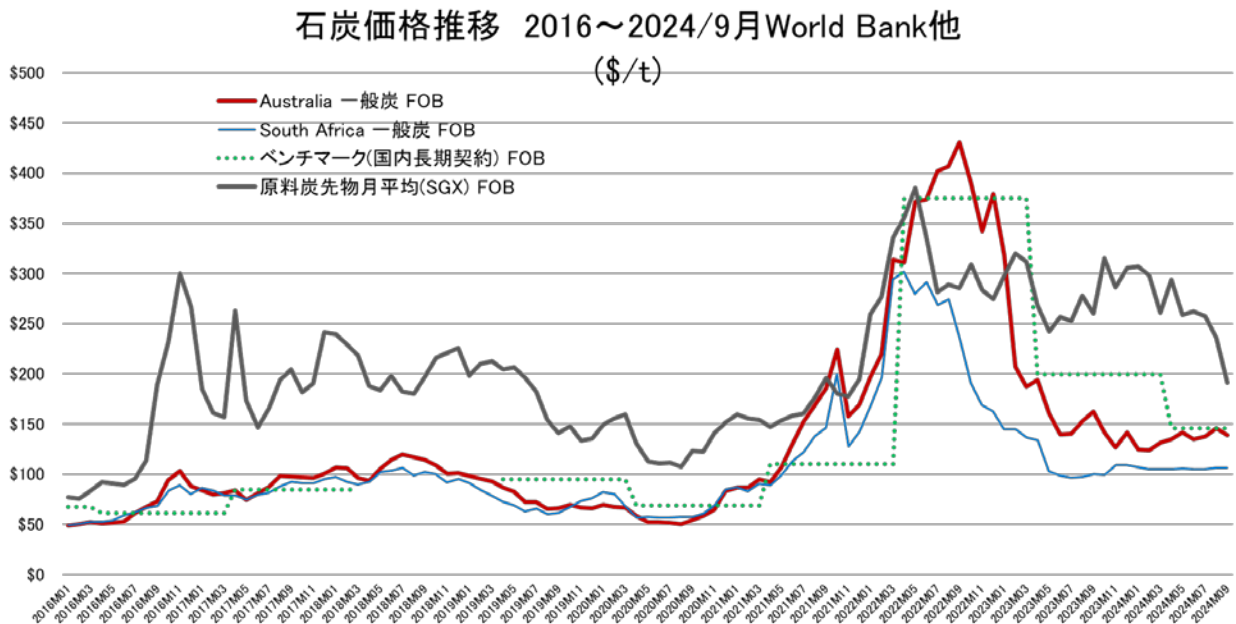
人工衛星を使ったメタン排出量調査では QLD 州のブラックウォーター炭鉱と NSW 州のボガブライ炭鉱の排出量は報告されている量の約 2 倍で、オーストラリア最大のメタン排出スポットとなっている可能性が指摘されている。

(続きは以下を参照。会員のみアクセス可能)

[https://www.jcoal.or.jp/member/news/AUS/20241024\\_01.html](https://www.jcoal.or.jp/member/news/AUS/20241024_01.html)



## 石炭価格推移



(出典:世界銀行「Commodity Markets」)

<https://www.worldbank.org/en/research/commodity-markets>

## アンケートへのご協力お願い

CF マガジンのご愛読を頂きありがとうございます。

CF マガジン掲載の海外ニュースをタイムリーに知りたいというご要望にお応えするため、ホームページへの掲載を優先する事に致しました。海外ニュースをご覧になる際には、ホームページの会員ページにアクセス下さい。

各ページ右下にアンケート用紙へジャンプするリンクを埋め込んでいます。短時間でご回答いただけますので、各ニュースへのご感想、取り上げてほしい題材、マガジンの構成等、どのようなご意見でも頂戴できると幸甚です。

## 独り言

俳優の西田敏行が亡くなり心にぽっかりと穴が開いた感覚になった。千代の富士やアントニオ猪木が亡くなった時も同じ感覚があった。彼が主演したドラマ「池中玄太 80 キロ」の放映は約 40 年前。当時は「どれだけ暴飲暴食すれば 80 キロになるのだろう」と思っていたが、そのうちダイエット目標に代わった。その目標に向けて西田敏行と長い伴走を続けている気になっていた。体重はさておき、せめて彼が演じたように朗らかにありたいと思った。≈ボタ≈